

第四節 其他ノ各地ニ於ケル労働争議ノ著例

(一) 長沙ニ於ケル碼頭苦力ノ争議

長沙ニ於テハ本年八月下旬國民黨ノ指導後援ニ依リ全省總工會成立シ更ニ同總工會ノ指導ニ依リ長沙所在碼頭全體ニ從業スル苦力ノ組合タル長沙碼頭總工會成立シ一般労働風潮著シク高潮シ來リタルカ十月初ニ至リ日清汽船會社並怡和公司、太古公司、(以上英國) 招商局、普濟公司、鴻安公司(以上支那)ノ六汽船會社所屬六個ノ碼頭ニ從業スル苦力合計約六百名ハ湖南全省總工會ヲ後援ノ下ニ國民黨省党部及ヒ長沙市黨部ノ指揮援助ヲ受ケ長沙碼頭總工會ノ名ヲ以テ前記六社ニ對シ物價騰貴ノ爲從來ノ賃銀ニテハ到底生活シ得サルヲ理由トシテ普通積卸汽船「ハルクル」間、曳船

間、民船汽船間、汽船倉庫間及碼頭労働等ノ六項ニ別チ更ニ荷物ノ大小ニ依リ要求賃銀額ヲ提示シ平均約四割ノ賃銀値上方ヲ要求シ其ノ聽カレサルニ於テハ罷工ヲ實行スヘキコトヲ宣傳シテ會社側ヲ脅威セリ賃銀値上要求ハ國民革命軍ノ北伐成功ニ因ル労働運動ニ伴ヘルモノナルカ更ニ各社碼頭苦力ノ賃銀カ大正六年頃ヨリ殆ント十年間一回モ値上セラレス長沙方面ノ一般經濟狀態ノ昂上ニ伴ハス低廉ニ過クル觀アリシ上本年三月以降續發セル政變兵戰ノ爲物價ノ騰貴ヲ見タルコト等ニ起因スルモノナルモ碼頭苦力ノ收入ハ他労働者ニ比シテ現賃銀ニテ尙一人當月額六十元乃至八十元ニ上リ而カモ碼頭労働ノ性質上獨占權ヲ有スルモノナレハ失業ノ虞モナク物價騰貴ニモ惑ヘテ生活困難ニモ陷ルコトナカリシモ

ノナリ而シテ各社ノ現實銀ハ「ハルク」碼頭ノ狀態及之ト倉庫ノ距離其他ニ依リ各所各様ナルヲ以テ今回ノ要求額ハ或社ニ對シテハ現狀ノ儘ニシテ他社ニ對シテハ或ハ五割乃至十割増トナリ或ハ三十割乃至六十割トナルモノアリ更ニ或ハ三割減トナルモノアル狀況ナリシカ右要求ヲ受ケタル各社中支那會社ハ港添ヲ喰ヒタル形ニシテ獨自ノ意見ヲ吐ク力ナク日英三社ト同一ノ態度ニ出ツルノ外ナキ立場ニ在リ日英ノ三社ハ在長沙駐在員間ニ於テ協議ノ上回答期限ヲ一個月トナシ苦力側モ之ニ同意シタルヲ以テ各社漢口幹部ノ協議會ヲ催シ三社ハ終始共同一致ノ態度ヲ執ルコトヲ決議シタル上對策協議ノ結果

一 幾分ノ訂正ヲ行ヒ値上要求ヲ承認シ之ヲ運賃ニ加算シ荷主ノ

負擔タラシムルコト

ニ全然要求ヲ拒絕シ停船ヲ執行シ一二ヶ月ノ「ロツク、アウト」ニ依リ苦力側ヲ屏息セシムルコト

ニ要求額中各種賃銀ニ付會社側ノ適當ト認ムル訂正ヲ行フモ其ノ平均値上率ニ於テハ要求ト大差ナキモノヲ作成シ妥協承認ヲ與ヘ之ヲ會社ノ負擔トスルコト

ノ三案ヲ得タルカ日清汽船會社ハ出來得ル限り穩當ナル態度ニ出ツルコト得策ナリトノ意見ニテ第三案ノ採用ヲ主張シタル結果英國ニ會社モ之ニ同意シ會社側ハ十月二十五日右ニヨル回答ヲ工會側ニ交付シタルカ之力爲最モ不利ヲ蒙ルハ太古公司碼頭苦力ニシテ彼等ハ之ニ不満足ヲ稱ヘタルモ會社側カ一致強硬ノ態度ニ出テタルト當初

側自身ノ要求カ不合理ナリシ爲苦力側内部ノ妥協成立シ會社側回答  
ニ同意シ罷工並停船ヲ見スシテ十月二十九日解決セリ  
右六會社以外ノ碼頭苦力ニ於テモ十月中既ニ一律六割ノ値上ヲ實行  
シ又十一月中旬ヨリ更ニ二割ノ値上實行ヲ決議シ省政府ニ許可申請  
中ナリシカ右要求ニ對シテハ省政府ハ其ノ政策上承認ノ態度ヲ示シ  
タルモ全市各商店及市民ハ苦力側ノ横暴ナル行動ニ憤慨シ各商店側  
ハ結策シテ斷然之ニ反對シタル結果十一月二十五日ヨリ罷業行ハル  
ルニ至レリ

之ニ對シ商店側又罷市ヲ宣シテ應戰シ形勢緊張ヲ來セルヲ以テ省政  
府ハ總商會及總工會ニ調停ヲ命シ十一月二十六日及二十七日雙方關  
係者ノ代表聯合會議開カレタルモ協定纏ラス其間ニ於ケル雙方及一

般人民ノ損失及困難ニ瀕ミ十二月一日ヨリ五日間解決條件付ニテ罷  
工及罷市ヲ解クコトトナリタル上建設廳ノ組織セル勞資仲裁委員會  
ノ仲裁ニ依リ十二月五日前後ヲ通シ六割六歩値上ノコトニ協定成リ  
辛ウシテ大體ノ解決ヲ告クルヲ得タリ

(二) 宜昌ニ於ケル労働運動

最近宜昌ニ於テモ國民革命軍政治部ノ活動顯著トナリ外人使用支那人間ニハ漢口ニ倣ヒテ洋務工會ナルモノ組織セラレ近ク罷業ヲ開始セムトスルノ氣勢ヲ示シ又同地郵便局ニテハ十二月六日ヨリ爲替係怠業ヲ始メ局長全般結束シテ給料値上ノ要求ヲ提出スヘク郵業中ノ處二十三日ニ至リ局長全部ハ郵務工會ノ名ヲ以テ雇傭人ノ壓迫ヲ受クルヲ理由トシテ公務停止ヲ聲明シ閉門シテ一齊ニ罷業シタルカ上局ノ職戒ニ依リ條件解決ヲ他日ニ讓ルノ諒解ノ下ニ翌日復業セリ

(三) 九江ニ於ケル労働運動

九江方面ニ於テモ最近労働運動乃至民衆運動感ニシテ是等ノ運動中ニハ中國共產黨又ハ青年團共產黨ノ旗幟ヲ用フルモノアリ新聞記事中ニモ無産階級ヲ煽動シ資産階級打破ヲ宣傳スルノ言説少カラサル處革命軍憲ハ之ヲ取締ルノ氣配ナク寧ロ暗ニ之ヲ助長スルノ態度ヲ執リツツアリ

從ツテ資産階級ハ極度ノ不安ニ襲ハレ労働者ノ氣勢日ニ強キヲ加ヘツツアル有様ナルカ總工會、國民黨市黨部等ハ之ニ對シテ援助獎勵ヲ與ヘ人力草夫、埋髮業者、裁縫業者等ノ罷業續々出現シツツアリ而シテ是等ノ運動ニ伴ヒ數十名ノ糾察隊組織セラレ之ヲ助長セムルニ至レルカ十二月十一日排奉運動ノ最終日ニ於テ總工會ノ指揮ノ下

ニ九江市内労働者ハ一律休業シテ之ニ参加シ日清汽船ノ碼頭苦力等  
モ休業ノ已ムナキニ至レリ

此日邦商前田洋行ハ上海ヨリ輸入ノ雜貨ヲ荷役セムトシテ其ノ使用  
支那人ヲ派シ税關ノ検査ヲ受ケシメタルニ突然糾察隊三名棍棒ヲ手  
ニシテ日清ノ「ハルク」ニ闖入シ工人休業日ナルノ理由ヲ以テ一切  
ノ荷役ヲ阻止シタル上税關吏ノ検査ヲモ妨止セムトシ之ニ應セサル  
ヤ遂ニ右使用支那人一名ヲ拉致シ検査吏ニ反抗シテ其ノ職務ヲ妨害  
シタルモ糾察隊員少数ナリシ爲メ辛ウシテ検査ヲ了シタル事件アリ  
右ノ如キ糾察隊ノ行動ハ將來同地方ニ於ケル貿易商ノ營業ニ由々シ  
キ障碍ヲ與フルモノナルヲ以テ同地帝國領事ハ税關長ト協議ノ上直  
チニ支那側當局ニ嚴重抗議シ糾察隊ノ取締ヲ勵行セシムルノ手配ヲ講

シタルカ労働運動ノ増長シツツアル今日此種不法行爲ハ今後モ續發  
スヘキヲ憂慮セラレツツアリタル處果然其後總工會ノ煽動ニ依リ一  
般労働者ノ運動俄カニ熾烈ヲ加ヘ十二月二十六日ニ至リ日清、太古  
及怡和ノ三汽船會社ノ碼頭苦力罷業ヲ開始シタルヲ以テ三會社ハ一  
致ノ行動ヲ執ルコトヲ協定シ賃銀五割増見當ニテ交渉シタルモ妥協  
成ラス其間糾察隊ノ橫暴甚シク二十九日ニ至ルヤ英國租界ハ糾察隊  
ノ襲フ所トナリ食料品其他一切ノ荷物ノ租界搬入阻止セラレ支那軍  
憲モ默認ノ態度ニシテ年末ニ至ルモ遂ニ解決ノ曙光ヲ見ルニ至ラス  
之ニ對シ英國側ハ陸戰隊ヲ増加シテ對抗シタル爲メ一般民衆ノ間ニ  
ハ排英風潮日ニ猛烈ヲ加ヘツツアリ

(追記) 本調査締切後昭和二年一月三日午后日清汽船ニ關スル限

リ罷業解決ノ報アリ

(四)重慶船業組合ノ日清汽船ニ對スル罷工

重慶船業組合ハ同地航業工會ノ教唆ニヨリ十月二十日ヨリ日清汽船ニ對シ同盟罷工ヲ決行シ之カ爲同日重慶入港ノ雲陽丸ヨリ荷役不能ニ陥レリ右罷業ノ表面上ノ原因ハ川江航業工會ニ於テ重慶宜昌間汽船運賃率ヲ五割増ト改正シ十月十五日以降一律ニ之ヲ實施スルコトヲ公布シタルニ拘ハラス十七日宜昌發雲陽丸、並二十日宜昌宜昌陽丸ハ何レモ從來ノ運賃率ニヨリ貨物ヲ吸集シタルハ故意ニ右航業工會ノ公約ヲ無視シ會規ヲ破リタルモノナリトノ理由ニ在ルカ如シ然レトモ其ノ内<sup>中</sup>ノ理由ハ楊森總司令ノ援鄂軍出動開始以來約一ヶ月間各國汽船トモ支那兵ノ強迫乘船ヲ恐レ悉ク出航ヲ見合ハセ居レルニ拘ハラス我日清汽船ノミハ在重慶後藤領事代理ト楊森トノ交渉ニヨ

リ日本商船ニハ軍隊ヲ搭載セシメストノ諒解ニ基キ平常同様航江ヲ持續シ恰モ宜昌、重慶間ノ航行ハ我日清汽船ノ獨占ナルカ如キ觀ヲ呈シ來レル爲航業工會ノ嫉視スル所トナリ遂ニ同工會ハ船業組合ヲ

教唆同盟罷工ヲサシムルニ至リタルモノナリ  
日清汽船會社側ニ於テハ前記雲陽丸及宜昌丸ノ積載貨物ハ十月十五日以前ノ引受ケニ係ルモノニシテ航業工會ノ公約ニ違反セス且假ニ右公約ニ背反セリトスルモ船業組合ヲシテ罷工セシメ荷役ヲ不能ナラシムルハ不法ノ措置ナリト主張シ交渉中ナリシカ一方荷役側ニ於テモ日清側ノ主張ヲ認メ航業工會側ニ對シ荷役ヲ爲シ得ル様極力運<sup>動</sup>シ席リタルカ航業工會側ハ飽ク迄日清汽船ノ公約無視ヲ唱ヘ銀七千兩ノ罰金ヲ要求シ右罰金ヲ完納セサル限り罷工ヲ繼續セシムヘシ

ト強硬ナル態度ヲ執リ居タル處二十五日宜昌航業工會會長重慶ニ來  
リ日清汽船側ニ公約違反ノ事情ナキコトヲ辯明シ且ツ各荷主側ニ於  
テモ極力日清側ヲ辯護スル所アリ一方約一ヶ月間停船シ來レル各國  
汽船モ劉督辦ヨリ何等汽船モ軍隊ヲ搭乘セシメサル旨ノ保證的通告  
アリ又總商會モ各國汽船ニ軍隊ヲ搭乘セシメサルヲ保證シタル爲ニ  
十六日ヨリ航行ヲ開始シタル結果、航業工會側モ從來ノ態度ヲ改メ  
無條件ニテ本件同盟罷工ハ解決ヲ告ケ十月二十七日ヨリ雲陽丸及宜  
陽丸ノ荷役ヲ見ルニ至レリ